

Bridge Asia Japan BAJ

認定特定非営利活動法人 ブリッジ エーシア ジャパン

年次報告書

2013年1月1日～12月31日

2013年度



2014年5月31日 発行

2013年度 年次報告書

(2013年1月1日～12月31日)

もくじ



2013年をふりかえって..... 3

BAJのめざすもの、プログラム..... 3

ミャンマー 4

(文章)+(プロジェクトマップ)

I ラカイン州北部の地域開発事業 5

1. マウンダーを中心とした事業
 - (1) 車両など機械類の整備事業
 - (2) 単気筒エンジンと溶接のトレーニング
 - (3) インフラ整備事業
2. 学校建設事業
(文章)+(表)

II 中央乾燥地の生活用水供給事業 7

1. 新規深井戸の掘削事業
2. 既存深井戸の修繕事業
3. 井戸の長期維持管理事業
4. 小学校建設と交流会
5. 小さな図書室プロジェクト
6. 政府・行政機関との連携

III 南東国境地域の給水整備事業 9

1. 水と衛生事業
 - (1) 新規水供給施設の建設 (2) 地質調査
 - (3) 既存井戸の修繕 (4) 給水委員会再活性化研修
 - (5) 水供給施設の維持管理講習、衛生講習
2. 緊急救援
3. パアン技術訓練学校の開校準備

IV ヤンゴン事務所 11

ベトナム 12

(文章)+(プロジェクトマップ)

I ホーチミン市での活動 13

1. 子ども教室(ばじ子教室)運営事業
2. ゴイサオ学校環境学習・科学工作

II フェエの生活改善事業 14

1. 環境教育活動
2. 家畜飼育農家の生計向上
3. 簡易浄化槽の設置

東京本部 16

I 資金の調達 17

1. 助成金や補助金、会費・寄付など
2. 募金キャンペーン
3. 東京の活動
 - (1) フルクル事業/HAPPY BOOK (2) 未来への提言
 - (3) 東日本大震災復興支援事業 (4) BAJ20周年記念事業

II 広報活動 20

1. 情報の発信
 - (1) BAJ通信・BAJメールマガジンの発行
 - (2) 主催報告会・イベント・講演・講義
 - (3) 出版 (4) インターン・ボランティアの受け入れ

III 総務・管理 21

1. 職員の研修

IV 海外事業の支援 21

- (1) 資機材の調達 (2) 出張・招へい
- (3) 専門家派遣

会計報告 22

2013年度をふりかえって

2013年11月に、BAJは設立20周年を迎えることができました。これも、ひとえに当団体の活動を支えていただきました会員のみならず、ご協力やご支援をいただいた皆さまのおかげと心から感謝を申し上げる次第です。

とくに2013年は、定款変更のための準備や規程類の変更など、東京事務所は運営の根幹にかかわる作業を進め、2014年2月には認定法人としての更新を無事に進めることができました。

また海外事業では、ベトナムのホーチミン市での活動を終了し、フエ市の貧困農家を対象にした循環型農業と収入向上のためのプログラムを軌道に乗せ、2014年からは新たに農畜産業経営強化支援事業を5年間にわたって開始します。

注目を浴びているミャンマーでは、かねてより進めておりましたカレン州パアンに技術訓練学校開校の準備を進め、これも2014年1月から訓練生30名でOJTによる訓練を開始しております。また、シトウェでは学校建設を順調に進めており、現在は2年次の20校建設と、3年次実施のための調査を同時に進めております。

20歳は、日本では成人としていよいよ社会の一員として自立する年齢です。BAJも2013年を節目の年として、今後の飛躍にそなえて十分な研さんを積んでいく所存です。

皆さまにおかれましては、どうか引き続きご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



認定特定非営利活動法人
ブリッジ エーシア ジャパン
理事長 根本 悦子

BAJのめざすもの

- 1 技術習得や能力強化の機会を提供します
- 2 収入向上を支援します
- 3 地域発展のための環境基盤を整備します
- 4 環境を守り啓発を進めます

プログラム

- 1 学ぶ機会に恵まれない青年層を対象に技術訓練の実施
- 2 地域住民の参加を促しながら、OJTによるインフラ整備
- 3 最貧困層女性を対象に収入向上のための技術訓練
- 4 生活用水を確保するための井戸建設と井戸修繕
- 5 子どもたちが安心して学べる学校校舎の建設
- 6 生活改善を目指して、衛生教育や環境教育の実施
- 7 未就学児の就学を進め、子どもたちの学習を支援
- 8 貧困農家の収入向上の支援
- 9 都市と農村をつなぐ循環型農業の実践
- 10 古着や本などのリサイクル

MYANMAR



海外支援活動事業

ミャンマー

ミャンマー政府は改革を着実に進め、2013年12月には東南アジア競技大会(シーゲーム)を成功裏に収め、また2014年は東南アジア諸国連合の議長国を務めることになっており、国際社会の一員としての存在感を示すことができました。

BAJは、これまでカウンターパートの国境省DRD(村落開発局)と覚書を交わして水供給事業を進めてきましたが、省庁再編に伴い新たに畜産水産村落開発省と、また学校建設事業では変わらず国境省の教育訓練局(EDT)との覚書を結び、カウンターパートを2つ持つことになりました。

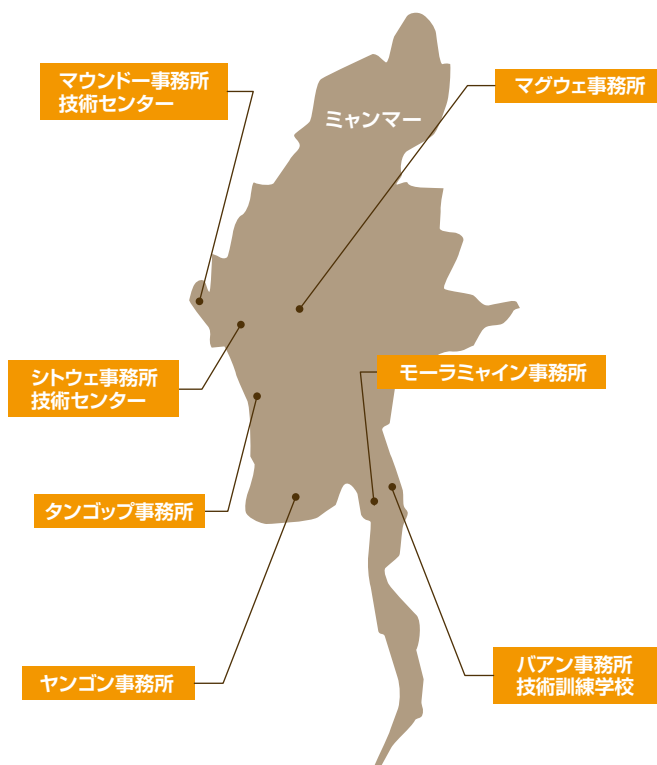
ラカイン州では、住居をなくした被災民のための恒久的シェルターを合計227棟建設し、300人以上の雇用を生み出して地域の安定化に貢献しました。日本財団様の資金で実施した小学校建設では1年次建設予定の10校を完成させ、2年次の2014年は20校の建設を予定し着手しています。

中央乾燥地域では、新たに7本の深井戸掘削と12本の既存井戸修繕作業、各種長期維持管理のための研修を行いました。中央政府と地方政府に対し合計11回に及ぶ調整会合を行い、綿密なニーズ把握と連絡調整に注力しました。ディアーズブレイン様のご寄付で小学校建設を実施し、社員研修の一環として22名の渡航受け入れに協力しました。

南東国境では、新規給水施設を10ヶ所、既存井戸の修繕を

15ヶ所で行い、各種研修、講習参加者も含め7,084人に裨益し、一日あたり35リットルの安全な水の入手が可能になりました。水と衛生に関する知識も研修前58%だった理解度が、講習実施後80%まであがり衛生環境の整備の一助となりました。

新規事業であるパアン技術訓練学校は、カレン族を中心に国境地域でこれまで教育の機会に恵まれなかった青年30人を集め2014年1月に建設科を開講しました。



I ラカイン州北部の地域開発事業

ミャンマーの最西端にあるラカイン州は、ベンガル湾に面して南北に広がり、最北部はバングラデシュと国境を接しています。総人口300万人のうち、モスリムといわれるイスラム教徒約100万人がバングラデシュ国境地域に住んでいますが、国籍がなかったり移動の自由がない人たちで、不安定な生活をしています。ラカイン州はもともとラカイン王国があった地域で、ラカイン族といわれる仏教徒の人たちとモスリムには対立の歴史があります。そのため、何かきっかけがあると暴動や騒乱へと発展しやすく、また過去には難民となって流出したモスリムも多いのです。

2012年に大きな騒乱があり、数百人が亡くなり、焼き討ちで6000世帯が家を失いました。この事態を受けてBAJはワークショップを一時閉鎖し、一方で緊急救援やシェルターの建設などを行いました。

2013年に入ってから、従来行っていた車両など機械類の整備を再開しました。また地元青年を対象に、7月には単気筒エンジンと溶接のトレーニングコースを実施することができました。

1. マウンドーを中心とした事業

【資金:UNHCR、日本財団】

(1) 車両など機械類の整備事業

BAJのワークショップでは、この地域で活動する国連機関や国際NGO、ミャンマー政府機関などが保有する車両、発電機、船外機などの修理を通して、各団体の支援活動を行ってきました。また、マウンドーに加え、2013年1月からはシトウエでも同事業が開始されています。

(2) 単気筒エンジンと溶接のトレーニング

7月に標記トレーニングコースの研修生を募集したところ、20名の定員に70名あまりの応募があり、こうしたトレーニングの需要が大きいことが分かりました。9月にコースを開始し、2ヶ月間のコース終了時には、20名中15名が卒業証書を手に入れました。



溶接トレーニング、真剣です

(3) インフラ整備事業

2012年の騒乱事件で中断されていたコミュニティー建設を2013年5月より再開し、3棟を建設予定でしたが、1棟は許可が下りなかったため中止し、2棟を完成させました。家を失った被災民のためのシェルター建設は、300名を超える期間限定の雇用を生み、さらに参加した地域住民に建設技術を伝えることができました。



建設チームのメンバー



マウンドーの新しい小学校です

2. 学校建設事業

【資金:日本財団】

2012年10月から開始した日本財団学校建設事業は、2013年11月に1年次に予定していた10校すべての建設が完了しました。各校舎には、机と椅子を10セット提供しています。また村にもフェンスなど住民参加で作成してもらうよう進めています。

建設の現場では、監督と熟練労働者(大工・左官)のもとに約10名の地元青年が参加して、OJT(オンザジョブトレーニング)で技術を習得しました。また参加者の中から技術をよく習得した者は2年次の建設にも参加できるようにしています。

2013年9月からは2年次の学校建設(20校を予定)を開始し、12月末で8校に着手しています。事業地拡大に合わせ新たにタンゴックに事務所を設置し、また家賃高騰のためシトウエ事務所も移転して、スタッフが宿泊できるようにしています。

1年次の建設作業の進捗状況は以下の通りです。

■ 第1年次(2012年10月1日～2013年8月31日)

No	郡名	地域名	サイズ・建設タイプ	施工開始日	進捗
1	シトウエ	チュエデ村	60f × 30f ・ 鉄筋コンクリート 構造	2012年 10月6日	100%
2	シトウエ	ティンタン村	110f × 30f ・ 鉄筋コンクリート 構造	2012年 10月7日	100%
3	パウトー	第1区	90f × 30f ・ 避難所機能付き 鉄筋コンクリート構造	2012年 11月8日	100%
4	パウトー	ユワチャンジー村	90f × 30f ・ 避難所機能付き 鉄筋コンクリート構造	2012年 12月8日	100%
5	ポナジュン	チェトウ村	60f × 30f ・ 避難所機能付き 鉄筋コンクリート構造	2013年 1月17日	100%
6	ポナジュン	アウミヤレイ村	60f × 30f ・ 避難所機能付き 鉄筋コンクリート構造	2013年 2月13日	100%
7	ミャウー	タウンウー村	110f × 30f ・ 鉄筋コンクリート構造	2013年 5月13日	100%
8	ミャウー	チャツゼイ村	120f × 30f ・ 鉄筋コンクリート構造	2013年 5月27日	100%
9	チャウトー	ピンラ村	90f × 30f ・ 鉄筋コンクリート構造	2013年 5月21日	100%
10	チャウトー	ドンドーユウ村	60f × 30f ・ 鉄筋コンクリート構造	2013年 5月21日	100%



鉄筋の堅固な校舎です

■ 第2年次(2013年9月1日～12月31日時点)

No	郡名	地域名	サイズ・建設タイプ	施工開始日	進捗
1	ダンゴック	キンタウン村	90f × 30f ・ 鉄筋コンクリート	2013年 9月1日	95%
2	ダンゴック	タンビューカーン村	40f × 30f ・ 鉄筋コンクリート構造	2013年 9月2日	100% (11/30)
3	タンドウエ	グエチャウン村	60f × 30f ・ 鉄筋コンクリート構造	2013年 9月9日	95%
4	グワ	アレチャウン村	40f × 30f ・ 鉄筋コンクリート構造	2013年 9月9日	95%
5	グワ	ラウンチョ村	60f × 30f ・ 避難所機能付き 鉄筋コンクリート構造	2013年 10月22日	75%
6	シットウエ	ビャーレイチャウン村	60f × 30f ・ 鉄筋コンクリート構造	2013年 9月11日	78%
7	マウンダー	ビャーター村	60f × 30f ・ 鉄筋コンクリート構造	2013年 10月8日	75%
8	グワ	タービューチャウン村	60f × 30f ・ 鉄筋コンクリート構造	2013年 12月16日	15%



完成した新校舎

II 中央乾燥地の生活用水供給事業

2013年は、年間を通じてさまざまな事業を実施しました。また乾季には地元行政機関から地質調査やクレーン車貸出しの要請が増え、本来事業との調整に工夫が必要でした。担当スタッフの交代があり、ヤンゴン事務所のサポートで「水と衛生事業」(プラン資金)や新規深井戸掘削事業(渡部資金)を進めました。外務省NGO連携無償資金(NAG8)による新規井戸掘削事業を5月からスタートさせ、12月までに5本を完了し、さらに長期維持管理の各種トレーニング事業も12月に集中して実施しました。新規深井戸は合計7本設置、修繕した井戸10本でした。

1. 新規深井戸の掘削事業

【資金:プランインターナショナル、渡部隆夫様、外務省NGO連携無償資金】

■ 2013年度に掘削建設した深井戸は以下の通りです。

No	村名	郡名	寄付者	掘削		揚水量 毎時/ガロン	給水槽 ガロン	進捗
				開始	終了			
114	サンピヤ村	ニャウン郡	プランインターナショナル	1/19	2/17	2,250	5,000	完了
115	ウーイン西村	チャウ郡	渡部隆夫様	2/21	4/8	2,250	5,000	完了
116	スービサン村	マグウェ郡	外務省(N連)	5/3	6/1	2,200	5,000	完了
117	シャーザウンカン村	マグウェ郡	外務省(N連)	6/13	6/30	2,500	5,000	完了
118	ニャウンピン村	マグウェ郡	外務省(N連)	8/4	8/29	2,250	5,000	完了
119	ダハッカ村	マグウェ郡	外務省(N連)	9/12	10/4	2,500	5,000	完了
120	ウエットー村	マグウェ郡	外務省(N連)	11/7	12/11	2,250	5,000	完了



プラン・ジャパンの視察で村人と交流

2月にサンピヤ村に完成した井戸について、8月にプランジャパン理事長をはじめ4名のボードが視察を行いました。スービサン村の井戸掘削ではたびたび逸水(泥水を循環しながら掘削していきますが、何らかの理由で泥水が逃げてしまいポンプを回せなくなる状況)が起き、穴をふさぐために大量の泥粉を孔に投入しました。また掘削を予定していたある村では住民間の合意ができていなかったため、行政機関と協議しながら別の村での掘削を行う、ということもありました。

2. 既存深井戸の修繕事業

【資金:外務省NGO連携無償資金協力、他】

■ 2013年に修繕した井戸のリストは以下の通りです。

村名	郡名	資金	揚水量(毎時/ガロン)		終了 日時	修繕方法
			修繕前	修繕後		
グウェゴン	イエナンジャウ	外務省(N連)	0	2,000	4/10	MONOポンプの パーツ交換
タビーサン	マグウェ	外務省(N連)	0	復旧の 見込なし	5/31	井戸孔洗浄、 ブラッシング
ベイエビユウ	マグウェ	外務省(N連)	0	1,400	5/24	ポンプパーツ 交換、エンジン、 ダイナモのチェック
テウオン	ナマウック	外務省(N連)	0	1,300	7/10	MONOポンプ パーツ交換
カンテ	マグウェ	外務省(N連)	1,600	2,500	7/5	MONOポンプ パーツと エンジン交換
チャウクエ	ナマウ	事前調査のため 自己資金	0	復旧の 見込なし	8/29	ポアホール カメラチェック のみ
リンカトー	ナマウ	外務省(N連)	0	復旧の 見込なし	8/29	パイプ、 ポンプの取出し
ジョージャカン	チャウ	自己資金	不明	2,250	8/20	ポンプ取出し 点検のみ
レジンヨウ	イエナンジャウ	外務省(N連)	100	2,000	10/26	MONOポンプ パーツ交換
バランピン村	ナマウ	外務省(N連)	1,000	2,250	11/9	MONOポンプ パーツ交換
チャウンブー	チャウ	外務省(N連)	1,800	2,250	11/13	MONOポンプ パーツ、 エンジン交換
セーガン	チャウ	外務省(N連)	0	復旧の 見込なし	12/13	ポンプ取出し、 ポアホール カメラチェック



水が出たあとも水質や水量を測ります

復旧が困難な井戸が4本もありました。またチャウンブーム村は4月に修繕の必要なしと判断しましたが、半年後に再チェックした結果、修繕が必要となりました。BAJのポアホールカメラが威力を発揮しました。

3. 井戸の長期維持管理事業

【資金:プランインターナショナル】

3月に7日間かけてサンピャ村水管理委員会を対象にマネジメントと基礎的な技術研修を実施しました。さらに水管理委員全員で情報共有ワークショップを、プランの専門スタッフによる衛生トレーニングも実施しました。

【資金:ワタベウェディング(株)、渡部隆夫様】

3月の3日間をかけて支援を受けた村9箇村を対象に、ポンプとエンジンの基礎トレーニングを実施。また村の水管理委員を対象に井戸運営のマネジメントについての情報共有ワークショップを開催しました。

【資金:外務省NGO連携無償資金協力】

11月に「水と衛生に関するワークショップ」を13箇村に対して順次実施しました。また、マグウェ事務所に特設会場を設置して、各村から3名の水管理委員合計39名を対象に、情報共有ワークショップ、運営トレーニング、エンジンと揚水ポンプ技術講習会を開催しました。



水が出て喜ぶ村の人たち



掘削した井戸へひっきりなしに水汲みにやってきます

4. 小学校建設と交流会

【資金:(株)ディアーズブレイン、シェアードスマイルジャパン】

ディアーズブレイン様の提案で、小学校校舎建設の費用をご寄付いただき、ショードー村に新校舎を完成させました。11月には完成した校舎で、就職内定者の学生さん22名を受入れ、彼らの企画による校舎引渡しのイベントを開催しました。村にとって日本という国と人を大きく印象付けた取組みでした。



村の人たちに日本の子どもの夢を披露

5. 小さな図書室プロジェクト

【資金:個人の支援者】

2012年12月から開始した「小さな図書室100プロジェクト」では、多くの個人の支援者からご寄付をいただきました。中央乾燥地域の9箇村の小学校に対し、各小学校に240冊、総計約2,000冊の図書と本棚を寄贈し、同時に先生方を対象に、図書の貸し出しトレーニングを実施しました。どの学校でも、子どもたちの強い読書への興味と村人たちの深い感謝を受けました。



届いた本を皆で読む

6. 政府・行政機関との連携

水供給事業を実施していくうえで、カウンターパートである国境省開発局(DRD)との調整や、マグウェ地域開発局(RDA)、郡開発局(TDA)とはクレーン車とオペレーターの貸し出し要請や、地下水の電気探査の依頼、井戸修理機材の借用、帯水層の電気検層依頼、孔内カメラによる井戸チェックなど、多くの要請を受け、都合がつかぎり協力しました。

Ⅲ 南東国境地域の給水整備事業

2012年1月、ミャンマー政府はカレン民族同盟(KNU)と歴史的といわれる停戦合意を結び、カレン州へのアクセスが大きく緩和され、海外からの支援が急増しています。日本のジャパンプラットフォーム(JPF)は、ミャンマーで新設されたミャンマーピースセンター(MPC)と覚書を締結し、JPF加盟の日本のNGOがカレン州内での活動を開始しています。

BAJはUNHCRの事業実施団体として2004年からカレン州とモン州で水供給事業を実施してきましたが、2013年は大幅な予算削減があり、やむなくトンゲーとベイクの2つの事務所を閉鎖してモーラミヤイン事務所のみの活動となりました。2013年は、新規給水施設10か所、既存井戸の修繕15か所、各種研修活動を実施しました。その結果、年間を通して7,084人の住民が1日当たり平均35リットル以上の安全な水を得られるようになりました。給水施設1か所の利用者が平均304人から46人と減り、また家から給水施設までの距離が平均754メートルから26メートルと短縮され、水汲みに時間と労力を取られていた女性や子どもは、その時間を生産活動や勉学に使えるようになりました。

新規事業として、教育の機会に恵まれない青年たちを対象にしたカレン州パアンに技術訓練学校開校の準備を進めました。建設候補地の選定や資金調達のための準備、カウンターパートとなる国境省教育訓練局との交渉や覚書の締結などを進めました。

1. 水と衛生事業

[資金:UNHCR]

(1) 新規水供給施設の建設

カレン州、モン州各5か所計10か所に新規給水施設を設置しました。内訳は、開放井戸3本、井戸5本(うち1本はソーラーパネル設置)、重力流パイプシステム2か所でした。

(2) 地質調査

合計78か所の地質調査とデータ解析を行い、地域ごとに適切な給水システムを選択しました。

(3) 既存井戸の修繕

BAJが建設した井戸で不具合が生じた井戸について、カレン州9か所、モン州6か所、計15か所の井戸を修繕しました。



井戸の修繕は村の若者にとって興味の対象です

(4) 給水委員会再活性化研修

給水施設がうまく維持管理できない原因として、水管理委員会が機能していないことがあります。理由は、委員となつているメンバーが海外へ出稼ぎに出てしまい、委員会が消滅しているケースがありました。そこで井戸を修繕した村の10箇村で水管理委員会を再活性化する研修を実施しました。

(5) 水供給施設の維持管理講習、衛生講習

新規給水施設を実施した村を対象に、維持管理講習としてエンジンやポンプ操作とメンテナンスについて、また水管理委員会の役割について話し合ってもらいました。また衛生講習では、関心の高い住民20名を対象に、「水・料理・トイレ・手」を清潔に保つことの理解を進めました。さらに5名を衛生プロモーターとして村のなかで知識を定着するためにうごいてもらうようにしました。



清潔に保つことが大切なことを話し合います

2. 緊急救援

【資金:緊急初動金 緊急救助募金】

7月下旬～8月上旬に南東地域の降雨量が急増し、大規模な洪水に発展しました。そのためモーラマイン事務所は被害の大きかった3村について緊急救援物資を3,073人(731世帯)に配布しました。



飲料水を村人に配布しました

3. パン技術訓練学校の開校準備

【資金:日本NGO連携無償資金協力】

カレン州は約3万平方キロメートル、タイと国境を接する地域で人口は約150万人です。ミャンマー独立以降は、国軍とカレン民族同盟(KIU)の紛争が続いていましたが、2012年1月に停戦の合意書が締結されました。紛争によって発生した国内避難民(約23万人)、難民の再定住が大きな課題となっています。さらに東西経済回廊の重要な地点として経済発展が見込まれています。

BAJは年初から、カウンターパートとなる国境省教育訓練局と話し合いを進めながら、学校建設予定地の視察を開始し、カレン州の工業団地用に準備された約6ヘクタールの土地の提供を受けました。国境省教育訓練局と覚書を締結して、2014年1月から工事を開始しています。

■ 2015年までのコース運営計画は以下の通りです。

コース名	期間	開始時期	対象
①建設(左官・大工)コース	半年	1年次(2014年)～	とくに制限なし
②自動車整備コース	半年	2年次(2015年)～	8年生 卒業生以上
③電気コース	半年	2年次(2015年)～	10年生 卒業生以上
④溶接コース	3か月	2年次(2015年)～	8年生 卒業生以上
⑤電子制御式 燃料噴射装置	1か月	2年次(2015年)～	②コースの 成績優秀者

各コースは30名で、全寮制です。他に英語クラス、コンピュータークラスを設け、また社会科見学や客員講師による講義なども実施する予定です。

事業内容として、徹底した理論・実技を通し技術の習得(建設カリキュラム:合計660時間、内訳:理論375時間&実技285時間)と、日本の国家資格レベルの技術習得(二級建築士、自動車整備士3級、電気工事師)を実施します。技術訓練学校校舎も建築コース訓練生によりOJTで建設します。また、電気・自動車コースの修了生が外からの仕事を受けられるようにワークショップを設置して収入を図ります。さらに政府認定付きの修了証を発行します。



校舎の建設現場では、研修生が指導を受けながら進めています



パン市内に借りた研修生の宿舎



カレン知事を迎えて学校建設の起工式を実施しました



ヤンゴン事務所は4階建てです

IV ヤンゴン事務所

各ローカル事務所との連絡調整や、ミャンマー側のカウンターパートとの交渉、JICAや外務省との連絡、さらに東京との連絡調整を行っています。また、南東国境事業のフォローや日本からの訪問者の対応、ミャンマー会計のまとめなどを行っています。

2013年はドナーであるUNHCRからの要請で、ローカルスタッフはこれまで個人で申請していた所得税について、雇用主の一括納税とオンライン会計ソフトウェアの使用を開始しました。ネットの接続状態が悪い現地事務所ではデータ入力が遅れる傾向があるなどの課題はありますが、作業時間の短縮と説明責任の向上が期待されます。

他に、ミャンマー各事務所と連携を取りながら、以下の業務を進めました。

- 1 ソーラーコンパクトライト寄贈受入れ

- 2 小さな図書室プロジェクトサポート

- 3 (株)ディアーズブレイン内定者受入れ手続き

- 4 国際NGO登録サポート

- 5 チン州学校校舎建設サポート



VIETNAM



海外支援事業

ベトナム

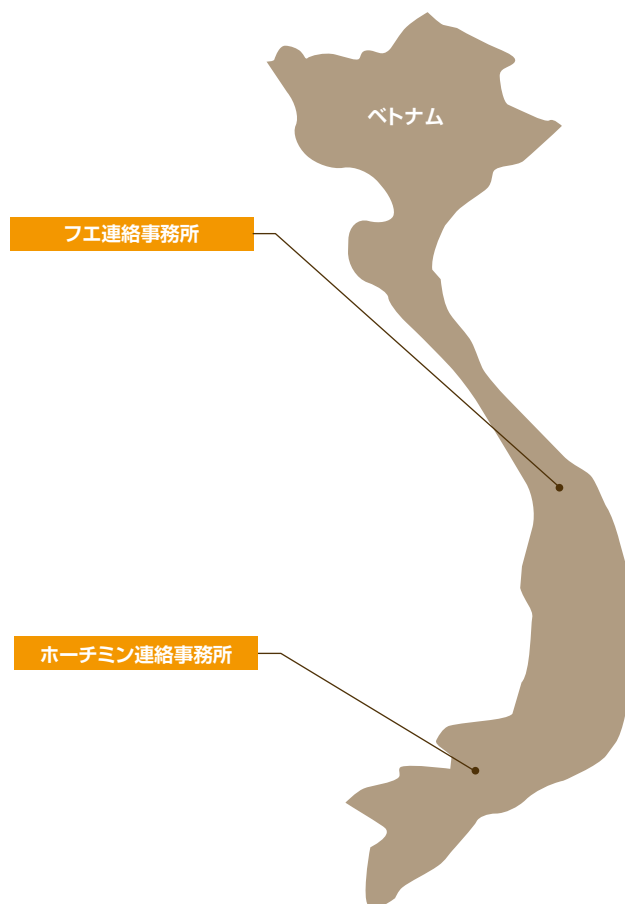
ベトナムで活動する国際NGOの管理について、2012年3月に政令が公布され、6月に施行されました。これを受けて、BAJはこれまでの「活動許可書」を「活動登録書」に切り替える手続きをベトナムと東京で進め、2013年7月に新たに活動登録書を取得することができました。これにより、2016年7月3日まで活動を継続することができるようになりました。日本人スタッフのビザや銀行口座の管理に影響がある活動許可書と登録書の期限が、これまでの1年から3年に延長され、事務手続きが多少緩和されました。

2003年3月にホーチミン市に連絡事務所を設置して以来、アンカイン地区で10年間継続してきた環境改善事業は、住民の移転や駐在スタッフの退職に伴い8月までに終了しました。2011年からはBAJフエ事務所を拠点として、トゥアティエンフエ省内の各地域を対象に環境関連の事業を進めています。

フエ市トゥイスワン地区の貧困農家を対象に、家畜糞尿処理のためのバイオガスダイジェスターの普及事業では、2011年から累積して29基を設置しました。9月にはバイオ農家グループの代表5名がタイ・コンケン県を訪問して、有機農法に取り組む農家の活動を視察しました。

フエの郊外農村の3地区を対象に、農家の農畜産業経営強化

に向けた事業をJICA草の根技術協力事業(パートナー型)に申請し採択されたので、2014年4月からの事業開始の手続きを進めています。



I ホーチミン市での活動

これまでBAJホーチミン事務所は、「子ども教室(ばじ子教室)運営事業」「ゴイサオ学校環境学習・科学工作活動」「ティエンアン盲学校支援事業」を進めてきましたが、担当職員の退職に伴い、ホーチミン事務所を閉鎖して2013年8月に事業を終了しました。これまでの皆さまからのご支援に感謝を申し上げます。「輝けアジアの子ども基金」につきましては、引き続きフエ市トウイスワン地区およびその周辺地域の貧困世帯の子どもや障がい児を対象に、教育支援を行います。

2013年8月までの事業は以下の通りです。

1. 子ども教室(ばじ子教室)運営事業

【資金:武田資金】

2012年度から引き続き、毎週火・水・金曜日の3日間の夕方と、土曜日の午前・午後で子ども教室の授業を実施しました。教室の出席した子どもは小学校2年生から5年生までの22人でした。



糸電話で音の伝わり方を実験



学校では教科書の暗記が中心ですが、ばじ子教室では家で使う電気について調べたり、植物の観察など、身近な暮らしのなかから考える力をつけています

2. ゴイサオ学校環境学習・科学工作

【資金:武田資金、(株)LIXIL】

ホーチミン市の大学に通う大学生や大学院生が中心になって、ゴイサオ学校(中高一貫)で環境学習・科学工作の授業について、5月半ばまで実施しました。6年生～11年生の計18クラスを対象に、毎週月曜日～金曜日授業を実施しました。授業の内容は、地域の紹介や地図づくり、身の回りの水について、ゴミの問題、日本の公害問題、電気野実験、光や音の実験、などです。



話し合いながら協力してまとめていく力をつけます



地域の地図をつくることで課題がみえてきます

II フェの生活改善事業

フェは「ベトナムの京都」と言われる古い都で、王宮や王墓、また古い寺も多く散在する地域で、観光に力を入れている都市ですが、一方で貧困層の割合が高い都市でもあります。BAJは2002年からフェ市人民委員会やトゥビエウ地区、トゥイスワン地区の人民委員会と協力して環境改善活動を進めました。

1. 環境教育活動

【資金:輝けアジアの子ども基金、(株)LIXIL,キヤノン(株)、地球環境基金、エコポイント他】

トゥビエウ地区・トゥイスワン地区(2013年6月まで)および
トゥアティエンフエ省クアンディエン郡シア町アンザー集落
(2013年4月まで)で、環境絵画クラスを実施しました。

■ 各地区の実施状況は以下の通りです。

場 所	対 象	実施日
フェ市トゥビエウ地区	小学2年生～ 中学2年生 20人	毎週日曜日
フェ市トゥイスワン地区	小学1年生～ 中学3年生 15人	毎週土曜日
クアンディエン郡シア町 アンザー集落	小学1年生～ 小学4年生 8名	隔週金曜日



畑を観察したら、こんなことに気がついた



ほくの家の近くの地図だよ

■ 各地区(トゥビエウ地区、トゥイスワン地区、シア町アンザー集落)で
実施した環境教育の学習内容は以下の通りです。

活 動 内 容
農家の庭に植えられた樹木のCO ² 吸収量の試算
バインナム作り(米粉をバナナの葉で包んで蒸したフェの伝統料理)
自然農法で野菜栽培をしている農家をゲームで探し、結果を地図にする
水質調査、堆肥作り、井戸の観察
自然農法実践農家の訪問
農家の庭、畑、野菜、虫の観察
唐辛子の採種方法について観察・聞き取り
地域の中で聞こえる「音」探し。
トゥビエウ地区の子どもたちとトゥイスワン地区の子どもたちの交流



農家のお手伝いをしながら、食べ物について考える



野菜は大切にそだてられているんだね

トゥアティエンフエ省沿岸部(フーロック郡・フーヴァン郡)の貧困世帯の人たちは農業や漁業で生計をたてていますが、毎年起きる洪水など不安定な生活を強いられています。また、井戸水を利用していますが、鉄分が多く、飲料としては浄化装置が必要ですが、その費用を出せないため健康への影響を心配しながらそのまま使用しています。

BAJでは、貧困世帯を対象に浄化装置の設置資金を一部支援し、安心して飲める水を提供しようと、ネット上の寄付サイトで資金を募り、貧困の40世帯に浄化装置を設置しました。さらにアンザー集落の子どもたちを対象に、水のテーマで以下の学習をしました。

活動内容
水の循環についての学習
水を汚さない工夫についての学習
お店から出るゴミ調べ
お店から出るゴミ調べ
水を使って作られる私の地域の特産品
地域の中の水がある場所の探索、水質の観察
水質調査

2013年11月より、フエ市トゥイスワン地区の小学校、トゥアティエンフエ省フーロック郡ヴィンミー村の中学校を対象に、環境教育活動を開始しました。トゥイスワン小学校ではクラス単位でカリキュラムの中で授業を行い、またラムモンクア中学校ではクラブ活動として環境活動を行いました。学習内容は今後もふくめて、水・土・植物・ゴミ・エネルギー・トイレ・農と食、といったテーマで学習を進めていきます。

■ 各地区の実施状況は以下の通りです。

場所	対象	実施日
フエ市トゥイスワン地区 トゥイスワン小学校	小学1年生(3クラス): 116人 小学2年生(3クラス): 75人 小学3年生(3クラス): 85人 合計276人	第1・3月～ 木曜日各クラス 2コマ/月
フーロック郡ヴィンミー村 ラムモンクア中学校	中学6年生(1グループ): 21人	第2・4火曜日

2. 家畜飼育農家の生計向上

【資金: 輝けアジアの子ども基金、(株)LIXIL、キヤノン(株)、地球環境基金、エコポイント、他】

トゥイスワン地区では、家畜糞尿処理のためのバイオガスダイジェスターの普及活動を行っています。2013年は合計11世帯の農家に10基のバイオガスダイジェスターを設置し、2011年から開始して以来29基になりました。設置した農家家畜飼

育農家はグループを作り、情報交換や研修などを継続して行なってきました。また豚肉の提携販売や加工品の開発販売を進めてきており、より安定した組織として農家グループを協同組合にすることを検討しています。

2013年9月16日～21日にかけて、グループ代表の5名が、タイのコンケン県で有機農法で作物栽培に取り組む農家の活動を視察し、土壌改良や販売ルートの開拓などについて研修を受けました。

■ タイの農家の活動視察

日付	内容	滞在地
9月16日	ベトナム・フエからラオス・サワンナケートに陸路で移動	ラオス・サワンナケート
9月17日	サワンナケートからタイ・コンケンに移動 コンケン県農家グループの協同販売活動を視察	タイ・コンケン県
9月18日 ～19日	土着菌を利用した有機たい肥による土壌改良や有機野菜栽培に取り組む農家グループの活動を視察	タイ・コンケン県
9月20日	コンケン県からラオス・サワンナケートに陸路で移動 コンケン県農家グループの協同販売活動を視察	ラオス・サワンナケート
9月21日	ラオス・サワンナケートからベトナム・フエに陸路で移動 コンケン県農家グループの協同販売活動を視察	タイ・コンケン県

3. 簡易浄化槽の設置

生活排水が流れだしていたトゥイスワン地区の協同水洗い場と、家畜の解体場所の2か所に簡易浄化装置を設置しました。



バイオガスダイジェスターは農家の人たちが協力して建設

TOKYO



国内活動事業

東京本部

BAJの主務官庁が国税庁から東京都へ移管されたことに伴い、2014年2月末以降の認定団体としてのステータスを継続するため、アドバイスをもらいながら認定更新の準備を進めました。具体的には、毎年東京都へ提出している報告書と定款に記された事業の整合性を確認し、必要な定款の変更事項を臨時理事会、臨時総会を経て承認されました。その後、東京都に対して認定更新の申請を行い、2014年1月8日に承認を受け、2019年1月までの更新手続きが完了しました。

2013年後半の財政的な見直しをつけるため、東京管理費の縮小のため、賃金の見直し、事務所の移転など実施しました。4月からは賃金に透明性をあたえるため新給与体系を構築し、2014年から目標管理による賃金制度を進めています。2013年は人件費削減のため、東京は退職者の補給をしませんでした。その結果イベントなどを積極的に実施できない状況がありました。2014年は徐々に取り戻していきたいと考えています。

I 資金の調達

1. 助成金や補助金、会費・寄付など

2013年は後半に入って各事業の申請が順調に進みました。その結果、新規事業のマンマー・カレン州バアン技術訓練学校資金約6,000万円、ラカイン州シトウェの学校建設事業約1億5,000万円などが採択されました。



BAJの事務所に参加して下さったボランティアさん

■ 2013年度にご協力いただいた団体様は以下の通りです。

事業	機関・団体名
マンマー	外務省NGO連携無償資金協力、国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR)、日本財団、ワタベウエディング(株)、Shared Smile Japan、フラインインターナショナル、浦安在住外国人会、(株)ピロタス、ブリッジヤーズ(有)、WAVE、渡部隆夫、ヤフー(株)、(株)ソフコンサルタント、(株)ロイヤリティマーケティング、(株)ディアーズブレイン、JANIC
ベトナム	(株)INAX/LIXIL、環境再生保全機構/地球環境基金、自治体国際化協会、Ready For、キヤノン(株)エコジャパンカップ総合運営事務局、(株)エイチ・アイ・エス、クラブ関西、武田資金、するがや、JANIC環境パートナーシップ会議、(有)片山技研
BAJ(東京)	東京神宮ライオンズクラブ、(株)大木組、ワタベウエディング(株)、(株)日本開発サービス、日光物産(株)、(株)ピース・イン・ツアー、学校法人城西国際大学、岐阜長良川ロータリークラブ、WAVE、(株)ピロタス、(株)ダイナックス、ケアセンター・やわらぎ、(株)エヌエルシー、(有)峰秀興業、(株)ソフコンサルタント、ブリッジヤーズ(有)、キャピタル工業、国際航業(株)、松江南高等学校、(株)ポリグルインターナショナル、かめのり財団、富士ゼロックス(株)、トヨタ財団、ゆたかこどもえん、立教大学、楽天オークション、シャンティール国際ボランティア会、(株)セプテーニ・ベンチャーズ、JANIC
東北(岩手)	Give2Asia、ヤフー(株)、(株)スタッフアルファコミュニケーション

■ 寄付先を指定した寄付・会費は以下の通りでした。

	会費・BAJ寄付・まるごと	マンマー	ベトナム	東北	合計
国内	8,902,406	6,309,974	3,320,316	140,264	18,672,960
海外	1,691,633	50,000	26,824	186,707	1,955,164
合計	10,594,039	6,359,974	3,347,140	326,971	20,281,124

2. 募金キャンペーン

毎年恒例の冬の募金キャンペーンに加え、2013年は緊急募金、図書室募金、ベトナムの安全な水募金はクラウドファンディングで資金を集めました。

■ 2013年は以下のキャンペーンを実施しました。ご協力いただいた皆さま、ありがとうございました。

タイトル	内容	金額
小さな図書室プロジェクト 2012年12月～ 2013年11月	創立20周年記念事業としてマンマーの小学校に図書と専用の棚を贈るプログラム(1口5万円で2口で1セット)で9つの小学校に贈呈しました。	900,000円
モン州洪水緊急募金 2013年 8月～10月	「子どもとおとなでつくる“なつかしい未来”」のテーマで6月1日～8月31日に実施し、ネットやイベントを通じてベトナム活動のアピールをしました。	327,000円
フエ省沿岸部に安全な水を 2013年 10月～12月	READY FOR (ネット募金)によるキャンペーンにより、トゥアティエンフエ省フーロック郡、フーヴァン郡の貧困世帯に対し、浄水器を設置しました。	424,000円
冬募金 2013年 12月～2月 世界の子ども にお年玉を	BAJ活動全体への協力をお願いする冬募金キャンペーンを実施。既存支援者を中心に、他にHP、ブログ、Facebookなどで呼びかけました。	362,000円

3. 東京の活動

2013年は、古着リサイクル「フルクル」の活動を活発化させました。また、ブックオフとの提携による「HAPPY BOOK」をスタートさせました。トヨタ財団の隣人プログラム特別企画「未来への提言」にBAJの申請が採択され、マンマー、ベトナムのスタッフを招へいしてワークショップ、シンポジウムを開催しました。さらに2013年11月は、BAJ設立20周年にあたり、記念事業を実施することができました。

(1) フルクル事業／HAPPY BOOK

2011年から日光物産(株)様のご協力で開始したフルクル事業も2年経過してようやく定着してきました。とくに雑誌で紹介された月は反響が大きく、実績を伸ばすことができました。また大型店舗の古着回収イベントで、回収した古着の買い取り額をBAJに寄付していただく活動も増えてきました。楽天オークションゆうパックの送料割安サービスの利用者も増えていきます。

■ 2013年のBAJ倉庫受け取り分、箱数、寄付金額は以下の通りです。

1月～12月	箱数	キロ数	金額
合計	8,115箱	62,112.80キロ	646,497円

HAPPY BOOK(本・CD・DVD・ゲーム等の回収)
については、今後広報を強化して広げていきます。



BAJ倉庫に届いた皆さまからのダンボールの前で、日光物産の方と

(2) 未来への提言

BAJはこれまでベトナム、ミャンマー、スリランカで国際協力の事業を進めてきました。創立20周年を機に、トヨタ隣人プログラム特別企画「未来への提言」という課題に対し、アジアの草の根活動～成功と失敗の経験から未来への展望を導く～というテーマで申請し採択されました。

具体的には、ベトナム、ミャンマー、東京の各事務所で活動で得た経験の話し合いをもとに、4月8日～13日にかけて現地スタッフ(ベトナム、ミャンマー)、日本人スタッフ、さらに東北でBAJが支援した被災地のNPOスタッフを交え、被災地の視察、ワークショップを主とした経験交流を行い、その成果を合同報告会(フォーラム)で発表して議論を深めました。また、交流活動で得た学びを「未来への提言」として冊子にまとめ、支援者や開発関係者に配布しました。さらに12月13日(金)には、BAJ創立20周年イベントのなかで「未来への提言」をテキストにシンポジウムを開催して内容を深めました。

■ 事業の概要は以下の通りです。

タイトル/会場	開催日	内容
1. 被災地見学・交流会／岩手県・大槌町	1日目 4月8日	地元団体との交流／「おらが大槌夢広場」とBAJスタッフの自己紹介とオリエンテーション。復興食堂にて新規メニュー開発の試食体験。地元被災農家訪問と交流。被災地の視察。伝統文化「虎舞」の観賞。
	2日目 4月9日	や取組みの経過、さらに現状と課題について説明を受けた。ワークショップとして、2グループに分かれ、①視察の振り返り、②子どもを巻き込んだ復興の形／インフラとソフトの重要性について意見交換。
2. 経験交流ワークショップ／東京・文京区民センター、文京シビックホール	1日目 4月10日	ミャンマー、ベトナムから活動内容、直面する課題、今後のアプローチについてプレゼンテーション。その後グループワーク①「各国の活動の強み」の洗い出しを行い、グループごとに発表。グループワーク②「各国の強みから見えるBAJのトレンド」として各国共通テーマの抽出を行い次の7つのテーマがあがった。1)長期的アプローチ、2)住民の目線に立ったアプローチ、3)ニーズベース・アプローチ、4)日本の技術や経験を活かす、5)人材育成、6)学びあい(子ども・住民・スタッフ)、7)行政との信頼と連携。
	2日目 4月11日	東北NPOの2団体よりプレゼンテーションによる活動内容の紹介と課題、今後のアプローチについて発表。ワークショップ「日本とアジアの共通点を探る」として、スタッフを2グループに分け、前日のグループワーク②であがった7つのテーマについて、達成するために必要な条件やアプローチ、メリット、デメリットなどを検討した。
3. フォーラム「草の根でつなぐアジア～これから必要な支援とは」の開催／東京・JICA地球ひろば国際会議場 来場者数：48名	4月13日 第1部 東北	～震災から見えてきたもの～として、おらが大槌夢ひろば、さんさんの会のスタッフとBAJによるディスカッション。 登壇者：新石正治(BAJ東北担当)、臂徹・田中正道(おらが大槌夢ひろば)、菊池真吾・佐藤幸世(さんさんの会)
	第2部 アジア	～成果と今後の課題～として、BAJミャンマー、BAJベトナムの担当者からそれぞれ活動の発表と課題。
	第3部 パネルディスカッション	～これからのアジアに必要な支援とは～と題して①長期的アプローチ、②行政・住民との連携、③人を育てる、④第三者として、の各テーマにそってディスカッションをおこなった。 登壇者：根本悦子(BAJ理事長)、森島子(BAJミャンマー国代表)、片山恵美子(BAJベトナム連絡員)、中村尚司(龍谷大学研究フェロー)



完成した報告書「未来への提言」、BAJの20年の活動をふりかえり、そこから学んだ知見を8つの提言にまとめました

(3) 東日本大震災復興支援事業

2011年4月から支援を開始した震災復興支援事業は、Give2Asia資金による岩手県大槌町「おらが大槌夢広場」への支援をもって2013年5月末で終了しました。ただし、岩手県大船渡市「さんさんの会」については、支援者対応や総会・理事会など運営に関わる相談など後方支援を継続しています。

■ おらが大槌夢広場の「町方ドーム」で実施した2013年の活動は以下の通りです。

コミュニティセンター「町方ドーム」の活動内容

1月	パソコン教室(40名)、写真教室(6名)、そば打ち体験教室(7名)
2月	お茶教室(10名)、パソコン教室(36名)、手芸教室(35名)、そば打ち体験教室(7名)
3月	ペーパーフラワー教室(14名)、そば打ち体験教室(7名)、アロマ体験イベント(13名)、Facebook講座(5名)
4月	パソコン教室(39名)、そば打ち体験教室(7名)、アロマサロン(8名)、切り絵教室(5名)
5月	ペーパーフラワー教室(16名)、羊毛フェルト教室(9名)、ネイル教室(24名)、手芸教室(21名)



東日本大震災復興支援事業の完了報告書です、BAJは初めて現地のNGOとパートナーシップを組んで進めました



さんさんの会メンバーに、NPOを運営していくうえで必要となる事務手続きなどについて、BAJのスタッフを派遣してサポートしました

(4) BAJ 20周年記念事業

1993年11月、ベトナムの戦後復興支援を皮切りに任意団体である「インドシナ市民協力センター」を立ち上げ、1995年からはミャンマーラカイン州での帰還民支援、2003年1月にはスリランカ北部LTTE支配地域での復興支援事業を開始し、さらに3月からはベトナムのホーチミン市に連絡員を駐在させてベトナムでの活動も本格化させました。20年間の活動を通じて、これまで活動を支えてくださった支援者の方々に感謝をこめて、20年間の振り返りと新規事業の紹介、「未来への提言」をテキストに12月13日に日本財団ホールを会場にシンポジウムおよび活動報告を行いました。

■ 記念イベントの内容は以下の通りです。

	内 容	担 当
1	開会あいさつ	根本
2	BAJ20年の活動を写真で振り返る	根本
3	記念シンポジウム 「8つの提言より(トヨタ隣人プログラムより)」 登壇者:北脇秀敏、高橋昭雄、中村尚司、森晶子、片山恵美子、根本悦子	
4	BAJからのお知らせ カレン州バアン技術訓練学校開校、 ラカイン州学校建設引渡式、ICVAへの加入 フエ市農畜産業農家経営支援事業、 フルクルとHAPPY BOOK	森、 片山、 尚実
5	懇親会(日本財団8階ホール) 参加者からのお祝いメッセージ、ミャンマー布展示、 弦楽四重奏演奏	



記念シンポジウム「8つの提言より」では、長期にわたって関わっていただいたシンポジストとBAJのスタッフが登壇しました



会場からの質問にも熱が入ります

II 広報活動

1. 情報の発信

(1) BAJ通信・BAJメールマガジンの発行

ご支援をいただく方々とBAJの活動現場をつなぐ大切な機関紙『BAJ通信』につきまして、2013年から年4回の発行とさせていただきます。これはBAJメールマガジンの発行やブログなどで、活動情報を素早くお知らせできるようになっていることなどを考慮しました。2013年は107号～110号の4回発行で、110号はページを増やし、20周年記念号としました。BAJメールマガジンは月2回の発行を目指して努力した結果、21号(1月18日-20日)～39号(12月25日-27日)の計19回発行しました。2014年2月現在2,400通を超えたため、配信は3日間に分けて配信を行っています。

(2) 主催報告会・イベント・講演・講義

11月に20周年を迎えるにあたり、プレイベントとしてトヨタ隣人プログラムによる経験交流や被災地の視察、シンポジウム開催など報告機やイベントを主催して、BAJの広報に努めました。

■ 主な者は以下の通りです。

月日	内容	担当	場所
1月28日	東洋大学客員研究員会議	片山	東洋大学白山
2月1日	ベトナム活動報告「元気な農家が地域をつくる」	片山	地球環境パートナーシッププラザ
2月6日	国連難民高等弁務官との意見交換会	原	ウェスレーセンター
2月16日	パルシステム会員向けイベント出展	高橋・伊藤	生活クラブ生協
3月3日	神奈川地球市民アクト定例講演—BAJの活動	根本	横浜JICA
3月9日	①東北活動報告「地元の人たちと歩んだ2年間」 ②ミャンマー報告「ラカイン州の安定を目指して」	正治 吉岡	渋谷区初台区民会館
3月20日	ミャンマーの動物張り子で遊ぼう	関口・高橋	東京おもちゃ博物館
4月9・10日	トヨタ隣人プログラム・岩手県大槌町訪問	高橋	おらが大槌夢広場
4月11・12日	トヨタ隣人プログラム・経験交流ワークショップ	高橋	文京区民センター
4月13日	BAJ 記念フォーラム「草の根でつなぐアジア」	高橋	JICA地球ひろば
5月18日	日本ミャンマーフェスタ2013出展	高橋	アセアンセンター
5月24日	JANIC長期スタディプログラム報告会	山木	JANIC
6月6日	(株)ディアーズブレイン—BAJ紹介	根本・山木	(株)ディアーズブレイン
6月22日	ビルマ市民フォーラム講演—BAJの活動	根本	池袋生活産業プラザ
7月12日	24年度自治体国際化協会事例報告	伊藤	日本財団ビル会議室
7月19日	トヨタ財団隣人プログラム中間ワークショップ	山木	
7月24日	三菱商事バザー出展	関口	三菱商事(株)
7月25日	ミャンマー報告会「技術訓練学校運営事業」	森	三菱CSRステーション

9月10日	バルク自由学校講義—BAJミャンマーの活動	根本	バルク自由学校
9月13日	アジア研ミャンマーポスト軍政研究会講師	根本	アジア経済研究所・幕張
10月16日	(株)キャノン ブックフェア—BAJ事業説明	伊藤	(株)キャノン
10月19日	横浜フェスタ出展(20日は雨天中止)	関口	横浜 象の鼻パーク
10月30日	都立千早高校講義—BAJのNGO活動	山木	都立千早高校
11月9日	宇都宮フェアトレード祭出展(平田夫妻)	伊藤	宇都宮商工会議所
12月3日	JANIC講演会講師—BAJのミャンマー事業	根本	JICA
12月4日	UNHCRグテーレス氏との意見交換会	吉田	衆議院議員会館
12月13日	BAJ 設立20周年記念イベント「未来への提言」	根本	日本財団ホール
12月16日	早稲田大学大門ゼミ講義—BAJミャンマー事業	根本	早稲田大学
12月19日	三菱商事バザー出展	伊藤・松口	三菱商事(株)パークビル

(3) 出版

出版物2点をご紹介します。

『アジアの市民社会とNGO』
秦 辰也 編著 / 晃洋書房 3,000円

アジアの国々でここ10年～20年の間に拡大してきている多様な市民社会の流れを、日本の国際協力NGOや現地NGOの動きから捉えなおそうというもの。タイ、カンボジア、フィリピン、インドネシアなどに加え、ミャンマーについて根本がBAJの活動を軸に人材育成の現状を伝えています。



注目の集まるミャンマーの現在を集約した『ミャンマー・ルネッサンス—経済開放の光と影』(根本悦子・工藤年博・編著 コモンズ・1800円)を出版しました。執筆は研究者や公的機関の方々に加え、NPOからはBAJのスタッフも執筆し、ミャンマーの今を多方面から紹介しています。

(4) インターン・ボランティアの受け入れ

ボランティアやインターンを希望する方々を対象に「BAJカフェ」として、お茶とお菓子をいただきながら、BAJの活動紹介と簡単な作業をお手伝いいただきました。2013年は5回開催し、ボランティアカフェには延べ53名が参加しました。

Ⅲ 総務・管理

資金繰りの状況を考慮し、4月から新たな人事制度と賃金体系を整備しました。同時に2014年からは目標管理を取り入れた人事賃金一体型の運用を取り入れるための準備を進めました。また、就業規則(本則)の改定を行い、休暇・母性保護や育児休業の分離、文言の統一などを行いました。

さらに、東京管理費削減のため、これまで倉庫兼宿泊所として活用していた新都心マンション303号室に8月1日より事務所を移転しました。それに伴い、これまでの書類整理や保管のための貸倉庫、また会議室などを借りています。

1. 職員の研修

必要に応じて、情報収集やネットワーク構築、研修を目的にセミナーや講座を受講し、職員の研修を行いました。また、外務省主催「NGO長期スタディープログラム」について、東京事務所の関口弘美が12月14日から2014年3月10日まで、タイのNGO「The Population and Community Development Association(PDA)」で研修を受けました。



タイの研修先で

■ 主な研修は以下の通りです。

月日	内 容	担当	場 所
1月26・27日	PCM研修 受講	伊藤	JICA市ヶ谷
1月30日	NPOサポートセンター「助成金申請のポイント」	片山	TKP新橋
2月3日、13日、20日	NPOサポートセンター「とことんサポートプロジェクト」	関口	NPOサポートセンター
2月7日	JANIC「メンタルヘルズ講座」	根本	早稲田奉仕園
2月9日	国連ミャンマーの人権に関する特別報告	原	ヒューマンライツナウ
4月24日	外務省N連説明会	山木	外務省
5月23日	議員連盟 NPO / NGO勉強会	関口	議員会館
6月18日	プラン・ジャパン活動報告会	山木	MCフォレスト
6月24日	ベトナムカトウ族の観光事業	伊藤	アーツ千代田
8月2日	JANICトレーナー育成「人道支援の国際基準」	森	早稲田奉仕園
11月5日	アークス創立20周年記念イベント	根本	本立寺釈迦堂
11月14日	JICA草の経理処理説明会	笠原・伊藤	JICA市ヶ谷
11月9・10日	PCMモニタリング研修	笠原	ICネット研修センター
11月20日	立教大インターン報告会	関口	立教大学・新座
12月14日～3月9日	外務省「2013年度海外スタディープログラム研修」 タイNGOのPDAで研修	関口	タイPDA

Ⅳ 海外事業の支援

(1) 資機材の調達

ミャンマー、ベトナムの事業で、現地が必要とする資機材、見積もり依頼、取得依頼、機材修理依頼などに適宜応じています。とくに、井戸掘削機械のスベアパーツ、地質調査用測量テープ、水質検査キットなどのほかに、ミャンマーのカレン州パアン技術訓練学校用の機材の見積もりなど行いました。

(2) 出張招へい

必要と判断したスタッフの出張を実施しました。また、トヨタ隣人プログラムにより、ベトナムから3名、ミャンマーから4名のスタッフを招へいしました。詳細は東京の活動「未来への提言」をご覧ください。

(3) 専門家派遣

2011年9月より開始したラカイン州シトウエでの学校建設事業では、東京から専門家2名(喜多裕氏、木内俊克氏)を派遣して、5月10日～20日の10日間にわたり現地に派遣し、ご指導をいただきました。



BAJが建設した校舎などを見ていただき、アドバイスをいただきました

2013 年会計報告

活動計算書 (自2013年1月1日～至2013年12月31日)

【経常収益】

		(単位：円)	
1. 受取会費(注1)		1,880,000	1,880,000
2. 受取寄付(注2)		27,890,548	27,890,548
3. 受取助成金等	受取助成金(注2)	117,490,256	304,515,294
	受取補助金(注3)	187,025,038	
4. 事業収益		3,528,430	3,528,430
5. その他収益		13,835,164	13,835,164
経常収益計(A)			351,649,436

注1 受取会費内訳		(単位：円)
個人会費		1,280,000
団体会費		600,000
受取会費計		1,880,000

注2 受取寄付・受取助成金内訳		(単位：円)
BAJ一般		10,040,208
まるごとサポーター		1,682,000
ミャンマー		127,750,375
ベトナム		3,434,009
輝けアジアの子ども基金(ベトナム)		1,128,000
東日本大震災		1,346,212
受取寄付・受取助成金計		145,380,804

※主な寄付先は「国内活動報告」認定NPOと資金の調達(1)資金調達にある表をご参照ください。

【経常費用】

		(単位：円)	
1. 事業費	人件費	69,788,517	334,402,252
	その他経費	264,613,735	
2. 管理費	人件費	10,578,827	19,872,073
	その他経費	9,293,246	
経常費用計(B)			354,274,325

注3 受取補助金内訳

国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR)

・ミャンマー/ラカイン州における技術ワークショップ及びインフラストラクチャー事業	31,884,651
・ミャンマー/ラカイン州におけるシェルター建設事業	77,503,154
・ミャンマー/南東地域における復興・給水施設建設事業	21,913,812

独立行政法人環境再生保全機構

・ベトナム/フエ市における小規模農家を対象としたバイオガスダイジェスター普及事業	1,981,985
--	-----------

外務省

・ミャンマー/中央乾燥地マグウェ地域における生活用水供給事業	47,059,429
・ミャンマー/カレン州/パン市における職業訓練学校運営事業	4,988,716
・長期スタディプログラム	801,291

東京都

・中小企業両立支援推進	192,000
・中小企業子育て支援	700,000

受取補助金計 187,025,038

当期正味財産増減額(A)-(B)	-2,624,889
前期繰越正味財産額(C)	57,625,255
次期繰越正味財産額(A)-(B)+(C)	55,000,366

事業別損益の状況

科目	ミャンマー						国内事業	事業部門合計	管理部門	合計
	ラカイン州北部地域開発事業	ラカイン州学校校舎建設とコミュニティ開発	中央乾燥地域における生活用水供給事業	南東国境事業	カレン州ハアン事業	ベトナム事業				
I 経常収益										
1 受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0	1,880,000	1,880,000
2 受取寄付金	2,179,684	286,966	10,270,617	58,458	13,308	2,888,987	200,579	15,898,599	11,991,950	27,890,548
3 受取助成金等										
受取助成金	0	107,573,896	5,838,475	0	0	792,693	3,285,192	117,490,256	0	117,490,256
受取補助金	109,387,805	0	47,059,429	21,913,812	4,988,716	1,981,985	0	185,331,747	1,693,291	187,025,038
4 事業収益	280,984	23,055	964,553	4,697	1,069	1,085,946	954,869	3,315,173	213,257	3,528,430
5 為替差益	0	0	0	0	0	0	0	0	13,702,702	13,702,702
6 その他収益	36	0	0	45	0	19,506	181	19,768	112,694	132,462
経常収益計	111,848,510	107,883,917	64,133,073	21,977,011	5,003,093	6,769,117	4,440,821	322,055,542	29,593,894	351,649,436
II 経常費用										
(1) 人件費										
給与手当	33,414,536	11,317,066	15,662,685	6,572,563	12,178	1,994,489	815,000	69,788,517	5,076,246	74,864,763
法定福利費	0	0	0	0	0	0	0	0	4,744,891	4,744,891
退職給付費用・退職共済掛金	0	0	0	0	0	0	0	0	757,690	757,690
人件費計	33,414,536	11,317,066	15,662,685	6,572,563	12,178	1,994,489	815,000	69,788,517	10,578,827	80,367,344
(2) その他経費										
資機材費	141,145,229	467,985	40,247,998	9,473,771	98,314	1,818,243	2,233,481	195,485,021	0	195,485,021
広報印刷費	5,164	4,981	2,961	1,015	231	19,570	2,163,358	2,197,280	185,699	2,382,980
旅費交通費	4,464,329	1,047,907	1,854,877	2,050,560	98,287	1,611,764	909,961	12,037,685	1,283,643	13,321,328
通信運搬費	2,231,890	12,859	1,270,722	396,334	930	109,102	324,247	4,346,084	500,537	4,846,621
消耗品費	2,039,898	32,231	1,170,628	501,671	1,912	254,806	32,384	4,033,530	1,183,636	5,217,166
修繕費	19,899,001	40,972	2,897,096	5,853,075	1,900	0	0	28,692,044	0	28,692,045
賃借料	7,668,508	0	2,704,590	2,306,704	0	136,374	0	12,816,176	922,440	13,738,616
減価償却費	0	0	154,221	0	0	0	170,948	325,169	0	325,169
保険料	481,784	717,941	414,276	352,256	3,526	268,466	-192,040	2,046,209	429,900	2,476,109
調査研究・研修費	69,620	3,914	418,382	5,410	182	206,873	100,685	805,066	268,943	1,074,008
諸会費	0	0	0	0	0	0	0	0	456,886	456,886
租税公課	0	0	0	0	0	0	0	0	33,150	33,150
法人税等	0	0	0	0	0	0	0	0	70,000	70,000
支払手数料	381,072	37,725	110,711	36,709	9,361	76,327	8,114	660,019	379,449	1,039,467
雑費	109,234	9,068	380,353	255,465	421	1	414,910	1,169,452	3,578,963	4,748,415
その他経費計	178,495,729	2,375,583	51,626,815	21,232,970	215,063	4,501,526	6,166,048	264,613,734	9,293,246	273,906,981
経常費用計	211,910,265	13,692,650	67,289,500	27,805,533	227,241	6,496,015	6,981,048	334,402,252	19,872,073	354,274,325
当期経常増減額	-100,061,755	94,191,267	-3,156,427	-5,828,522	4,775,852	273,102	-2,540,227	-12,346,710	9,721,821	-2,624,889

貸借対照表 (2013年12月31日現在)

【資産の部】

(単位：円)

流動資産	現金預金	現金	580,271	217,967,906
		流動性預貯金	57,527,868	
		ミャンマー現預金	154,534,304	
		ベトナム現預金	4,671,746	
	流動資産	立替金	47,196	
		未収入金	106,521	
固定資産	有形固定資産	仮払金	500,000	616,888
		機械装置	616,888	
	投資その他の資産	車両	0	
資産合計		敷金	0	616,888
				218,584,794

【負債の部】

(単位：円)

流動負債	未払金	29,743	159,763,613
	未払法人税	70,000	
	前受会費	70,000	
	前受寄付金	3,000	
	前受助成金	99,552,255	
	前受補助金	59,248,081	
	預り金	648,334	
固定負債	退職給付引当金	3,820,815	3,820,815
負債合計			163,584,428

【正味財産の部】

(単位：円)

前期繰越正味財産	57,625,255
当期正味財産増減額	-2,624,889
正味財産合計	55,000,366
負債及び正味財産合計	218,584,794



財務諸表の注記

1. 重要な会計方針

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日・2011年11月20日一部改正 NPO法人会計基準協議会)によっています。同基準では、特定非営利活動促進法第28条第1項の収支計算書を活動計算書と呼んでいます。

(1) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産は、法人税法の規定に基づいて定額法で償却をしています。

(2) 引当金の計上基準

・退職給付引当金
スタッフの退職給付に備えるため、就業規則に基づく期末自己都合要支給額から中退共制度の支給見込額を控除した団体負担見込額を計上しています。

(3) 消費税等の会計処理

消費税は税込経理によっています。

2. 用途等が制約された寄附金等の内訳

(単位：円)

内容	前期繰越	当期受入額	当期減少額	期末残高	備考
国連難民高等弁務官事務所/ミャンマー・ラカイン州におけるコミュニティセンター修繕事業	0	31,893,333	31,464,266	0	429,067
国連難民高等弁務官事務所/ミャンマー・ラカイン州におけるシエラ建設事業	0	78,146,906	77,503,154	0	643,752
国連難民高等弁務官事務所/ミャンマー・南東地域における復興・給水施設建設事業	0	22,463,102	19,291,458	0	3,171,644
外務省/ミャンマー中央乾燥地マダウエ地域における生活用水供給事業	0	47,059,429	47,059,429	0	0
外務省/ミャンマー・カレン州バアン州における職業訓練学校運営事業	0	59,864,592	4,988,716	0	54,875,876
株式会社LIXIL/ベトナムにおける環境教育	192,225	1,500,000	792,693	0	899,532
特定非営利活動法人 Shared Smile Japan/ミャンマー・中央乾燥地地域における学校建設	0	4,500,000	4,500,000	0	0
ワタベエディング株式会社/ミャンマー・中央乾燥地地域における生活用水供給事業	0	3,500,000	3,500,000	0	0
濃部隆夫/ミャンマー・中央乾燥地地域における生活用水供給事業	3,750,000	0	3,750,000	0	0
日本財団/ラカイン州学校校舎建設とコミュニティ開発事業	52,594,933	153,248,343	107,573,896	0	98,269,380
プラン・ジャパン/中央乾燥地地域生活用水供給事業	6,369,810	0	6,369,810	0	0
Give2Asia/岩手県の仮設住宅等の住民のための「コミュニティ・スペース」運営事業	924,252	0	924,252	0	0
ジャパン・プラットフォーム(JPF)/ミャンマー マダウエ管区セイコー郡における洪水被害者のための緊急物資配布事業	633,646	0	633,646	0	0
ジャパン・プラットフォーム(JPF)/岩手県大船渡市の仮設住宅等に住民協力を対象とした多目的コミュニティセンターの運営と運営(ランチ)のたれ食事の調理・配給	506,733	0	506,733	0	190,922
トヨタ財団/小タ人プログラム「アジアにける橋-未来への展望-」	1,220,000	1,070,000	2,097,649	0	192,351
外務省/海外スタディプログラム	0	209,033	81,291	0	127,742

4. 固定資産の増減内訳

科目	期首取得価格	取得	減少	期末取得価格	減価償却累積額	期末帳簿価格
(有形固定資産)						
機械装置	15,422,173	0	0	15,422,173	14,805,285	616,888
井戸掘削機						
車両	2,051,385	0	1,116,510	0	934,875	0
東日本大震災事業						
合計	17,473,558	0	1,116,510	15,422,173	1,574,160	616,888

(単位：円)



認定特定非営利活動法人 ブリッジ エーシア ジャパン

〒151-0071 東京都渋谷区本町3-48-21-303
TEL:03-3372-9777 FAX:03-5351-2395
E-mail:info@baj-npo.org <http://www.baj-npo.org/>

郵便振替口座 00130-739924 口座名 ブリッジエーシアジャパン

